

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームそれいゆ学園前
(ユニット名)	あやめ
所在地 (県・市町村名)	奈良県奈良市
記入者名 (管理者)	辻 巡美
記入日	平成 19年 11月 11日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社指針を基に、地域と共にご利用者様を支えていく為の基本理念と、事業指針・事業理念・行動指針を定めている。		
<input type="checkbox"/>	理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送りの中で、当事業所の理念・指針を唱和し、その志の基、日々の利用者様の生活で実践出来る様に努めている。		
<input type="checkbox"/>	家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族様には契約時に説明し、ホームページで公開している。ご家族様や地域の方々には、毎月の行事へ参加して頂いた際や年に2度の家族会の場で、都度事業理念を説明し実践している姿を見て頂いている。また、常にホームのフロア内に掲示している。		
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日の散歩・外出の際には隣人の方へのご挨拶や言葉掛けを率先してするように意識付け認識されている。現況では、先方からの声掛けも頂けている。		
<input type="checkbox"/>	地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の役員を努めさせて頂いたり、清掃・草刈、小学校でのイベント時の参加などで交流を図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	随時施設見学を受入れ、介護にお困りの地域の方など、相談を受けるよう取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は、職員全員が周知し、反省・問題点を謙虚に受け止め、改善を図るように努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見・情報を活かし、提供するサービスの向上に努めている。		運営推進会議というものを理解して頂き、地域との交流を一層図っていききたい。イベント性のあるものを企画し、徐々に馴染みある関係を作ることからはじめていききたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターの方々の来設は受けており、現況報告や連携を図るための話し合いは実施されている。		市町村担当の方々にも相談事や現状報告が出来る努力をしていきたい。また、来設頂ける機会も作っていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度は、既に当ホームでご利用実績があり、今後も必要なご利用者様には支援していく。		成年後見人制度についての研修は数回参加しているが、職員に具体化した内容をフィードバック出来ていないので、近々に社内研修等で実施したい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修において、虐待についての研修は行っている。周知徹底しているので、虐待は認めない。常に注意も払っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、詳細に渡って内容を読み上げ説明し、同意を得ている。不安・疑問点にも明確にお伝えし、ご利用者様とご家族様の納得を得ている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご利用者様との会話の中で、苦情や不満を察知しうる時は、敏速に職員で共有・対応を心がけている。時にはご家族様と相談し解決を図っている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>来設時には、必ず近況報告をしている。来設されにくい方には、文書・電話にて報告をするように努めている。金銭出納長も来設時に内容確認とサインを頂けている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年2回の家族会を開き、意見を伺っている。また、玄関口には意見箱も設置している。意見を頂いた際は、即時改善を図り、結果報告を行っている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者・管理者は必ず会議の内容は把握し、各ユニットのリーダーは、職員の意見や提案を聞き、リーダー会議等にて随時管理者に報告し、必要とあれば個別に話し合いの機会を設ける等して反映させている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況に応じ、必要な時間に対応できる様に努めている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>特例以外は人事異動は必要最小限にとどめている。やむを得ない場合は、徐々に勤務変更をかけ、ご利用者様に慣れて頂く様に努めている。離職希望時は、話し合いの機会を持ち防止を図っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月例の社内研修及び事業所内研修を実施している。また事業所で月に一度職員による研修を実施し、外部研修にも努めて参加出来る様にしている。日々においても必要に応じ指導している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者・管理者については、他施設への見学や訪問の際にネットワークを作りサービスの質向上に努めている。		職員間での、相互訪問が実施できるよう現在協議中。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	寛いで休憩出来る様休憩室を設置し、業務での不安や悩みなど、管理者から相談に応じ運営者に報告し、改善や環境づくりに努めている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎月行われる幹部会議において、個々の努力や実績などを報告により把握し、また、個別の評価や話かけにより、個々の意識向上が出来るように配慮している。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所に先駆けて、必ず個人面接を行い、ご本人の思いや要望を聞き、受容している。また、事前に職員にも判定会議にて周知させている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前の面接に先駆けて、ご家族様の意見・要望を聞き、また、事前面接の際にご本人も交えお話しする機会を設けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接の際に、ご本人とご家族様が必要としている支援を見極め、その方にあったアドバイスや必要に応じて適正な施設や相談先を紹介している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談した上で、当事業所併設のデイサービスからの利用や体験入所、施設見学など段階を経て利用できるように対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員にはご利用者様本人を主体とする介護をするように指導しており、ともに安心して充実した生活を行う上で、支えあう事の出来る人間関係を築いている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	多様なイベント、年1回のご家族様参加の温泉旅行に参加していただいたり、来設時に要望・意見交換をし喜怒哀楽の共有に努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	今までのご本人とご家族様の関係を理解し、それぞれの状況に応じ、時間を重ね徐々に良好な関係を築けるように努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までのご本人とご家族様の関係を理解し、それぞれの状況に応じ、時間を重ね徐々に良好な関係を築けるように努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	基本的に馴染みの関係が出来上がっているため、ご利用者様同士助け合っている場面も多々見られる。職員も孤立させない様、さり気なく間に入り支援できている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所(施設入所)された方への面会や、継続的な関わりが必要な場合は対応するよう心掛けている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にあセスメントの実施や、月に一度のモニタリングでその時々のご本人の思いについて議論し、ケアプランに反映させている。困難な方には本人本位で検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前のインタビューで、個々の生活歴などは周知し、日々の生活により窺い知った事は、申し送りや会議の場で情報交換している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の記録や申し送りの中で個々の状態や残存能力の見極めを行い、その方の変化に応じて柔軟に対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族様や往診医職員間での話し合いを下に様々な視点から意見を募り、最適な介護計画を担当者が作成している。意向を反映したプラン作成が出来ている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご本人の状態が変化し、現在の介護計画が不相当であると判断した際は、即座に関係者と話し合い新たな介護計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケアプランの内容を頭に入れ、プランに連動した記録に努めている。他、申し送りノート・状況表に基づいた細やかな情報を職員間で収集している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当事業所は、居宅介護支援事業所と併設の為、その時々々の要望に対応出来る様に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	福祉学校からの実習生の受け入れやボランティアの参加、消防との避難訓練などと協力しながら支援している。		民生委員の方とは、今後運営推進会議を通して協力を仰いで行く事を検討している。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設された居宅介護支援事業所を通して支援したり、地域の他のケアマネジャーから直接連絡を受け相互支援の関係を気付いている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて地域包括支援センターの方と会合や意見を求め、ご本人にあった方針等について協議した例がある。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の往診医については、契約時にご家族様からの了承を得ての受診としており、適切な医療を実施して頂いている。また、個別に希望のある医師・病院については個別に受診して頂いている。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診依頼をしている主治医は、他にも3ヶ所ほどのグループホームの主治医をされており、不明な点があれば指示・助言を頂いている。また、往診は月に2度行って頂いている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	必要に応じ、併設のデイサービスの看護師に相談・助言を求めている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院関係者と情報交換しながら協働している。場所が変わることによる精神面でのフォローや洗濯などの支援もしている。また早期退院を目指せる支援方法を取っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご本人の状態の重度化となる時点でドクターやご家族様と相談し終末期への方向性を決め、全員でその意向を周知・共有し介護に取り組んでいる。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期に対応できる環境が整っておらず、現状での「できる事、できない事」をご家族様にご理解いただき、可能な限りの支援に取り組んでいる。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	個人情報の取り扱いには十分注意し、転移されることのダメージをしっかりと受け止め、医療機関・ご家族様としっかりと話し合いの場を持ち本人の負担となる要素を最小限にとどめられる様支援を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>不適切な言葉かけや対応を行わない様に指導し、万が一そのような時は即座に指導を行っている。記録などの個人情報の取り扱いはしていない。個人情報については、シュレツダーを利用し、取り扱いを厳重に図っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>ご利用者様の意思決定を大切に、出来ることから始め、可能性がある時は、ご本人を信じ尊重しつつ支援している。表出に対しての説明も怠らないように努めている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>「その人らしさ」を尊重し、気分・体調に応じて相談し、外出先、メニュー、購入品などに決定権を持って頂いている。ご自分で決定困難な方にも気持ちを察知した上での提供を心がけている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理容に関しては、来設する理容師の方で納得して利用して頂いており、染髪や整容・おしゃれに関しては要望に応じ外出して、希望する店での理容を行っている。衣類は自己決定して頂ける様に支援している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>ご本人の気持ちや能力に応じて食事の準備や片づけを共にやっている。一連の作業を継続・個々の役割についての意識下で行えるようにも支援している。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>ご家族様と相談と了承の上で、飲酒等、嗜好品の提供を行っている。おやつ等はご家族から報告頂いた上で、個人管理の可能な方にはご本人の管理の下施行していただいている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄のバイオリズムを掴み、出来る限りトイレ誘導での排泄を心がけている。失禁を防止し、肌に優しい綿パンツに切り替えられるように努力している。常に暖かい清拭布も整っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を促す際、ご利用者様の希望する入湯時間・湯温等に配慮するよう心掛けている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の安眠につながる日中の活動を支援していることから、日中の体操・散歩と活動的にされているため、比較的安眠されている状況下にあるが、昼寝等については、ご利用者様のペースを尊重している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割分担(食器洗い、後片付け、掃除、配膳など)で張り合いや喜びを持って頂いている。健康状態や能力によって臨機応変な対応も図っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様やご本人の希望に応じ、金銭の所持・管理をして頂いているが、それ以外は事業所で一括管理している。買物の際には、可能な方には、直接お支払いする支援を行っている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調・気分に応じて、個々の外出や散歩を提供している。買物等も個人の希望時は支援する事もある。近隣の喫茶店に出向き、コーヒーや談話を楽しみゆったりとした時間を共有している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご本人の希望をご家族に伝え、外出の機会を作って頂いたり、可能な限り希望がある際には個別に外出の機会を設けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿って、電話や手紙を利用できるように支援している。また、そうする事によって関係性の継続も図っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご本人と面会を希望される方には、特に制限無くいつでも気軽に訪問して抱ける様にしており、ゆっくりと面会を楽しめるような環境を提供している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体・言葉の拘束については「してはいけない」と全職員が把握・周知していることである。今後も、方向性は変わらず対応していきたい。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ご家族様の要望もあり、駐車場に面した入り口には施錠をしているが、EV等はピン操作にて可能な方は自由に利用出来る様にしている。居室に関しては、ご家族・ご本人の意向の上でご本人に鍵をお渡しして自由に開閉してもらっている方もおられる。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に職員はリビングに1人は在居し、入居者の所在を把握出来る様に努めているが、在室中や散歩などの際には職員同士で声を掛け合い所在確認を行う様にしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険だからといって、ただ取り除くだけでなく、ご本人にとってどれほど重大な物であるかを検討し、対応に心がけている。状況下においては、ご家族様の了承を得た上で保管すべき物は職員が管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	それぞれの事故防止の重要性を会議や日々の指導で呼びかけているが、万が一事故が起こった際には事故報告書やひやりはっと報告書にて回覧し再発防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	社内研修にて、緊急時の処置・対応マニュアルによって指導・学習している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時に地域の方々の協力を得られるよう働きかけている。特に夜間時の火災・地震時を想定し、夜間時非難訓練を施設で実施している。		より地域の方々の協力を得られる様に、運営推進会議で提案する事を検討している。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々の状態に応じ、起こりうるリスクは説明し伝えているが、日々の生活の中では可能な限り抑圧感を抱かせないように対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々、利用者様の体調の変化や異変には気を配り、異変がある時は日に2回の申し送りや、申し送りノート、介護記録にて伝達し対応している。また、職員は独断での判断をせず、複数での確認を徹底している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のカルテ内の薬表の内容を職員には確認する様に徹底しており、事務所には薬本も常備している。また、日々の状態の変化や往診医との内容については往診ノートに記載しており、確認する様にも徹底している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員には、便秘による危険性を指導しており、予防のために、毎日おやつにヨーグルトを提供したり、散歩や体操を必ず行う様に取り組んでいる。また、排泄不良の際には、不良日数を確認し下剤での排泄調整を行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々の状態に応じ、必要な方には職員の付き添いにて口腔洗浄を支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事・水分摂取量を記録し、把握している。病気を抱えておられる方々などのカロリーにも注意している。トータルで考え支援している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後や食事前の手指消毒や手洗いの励行、また、感染症に関する内容の研修を実施している。感染症予防に関するマニュアルも作成されている。夜勤時に目を通す習慣を持つようにも指導している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具・食器は、常に漂白や消毒・乾燥機の利用を行い、食材は、新鮮な食材を都度注文・配達としている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	デイサービス併設という事もあり、表札や掲示板にはご利用者様の作品などを展示したり、植込みには季節の草花を植え親しみ易い雰囲気づくりを心がけている。グループホームの玄関にも季節毎のオブジェを飾っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事中には、心地よい音楽を流したり、散歩時に摘んだ花を生けるなどで生活感・季節感を持って頂ける空間作りを行っている。また、食器類は、瀬戸物を使用し、一般家庭の味を出している。(ただし、重さが負担になる方のみ、一部プラスチック使用。)		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、テーブルの配置の工夫の他、ソファや冬にはコタツなど、利用者同士で過ごせるようにしている。それぞれが、慣れ親しんでおられる間柄の中、いつの場合においても自分の居場所を持っておられる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の説明により、ご本人の使い慣れた物、大切な物を持参して頂けるように説明し、利用者様によっては写真や家具を持参していただいている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビングには換気扇を2箇所設置し、日中は居室や廊下の窓を開けて換気している。温度調節は温度計や湿度計をリビングに置き、ご入居者様に適した環境調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面として、床材にはクッションフロアを利用し、万一の転倒の際に怪我を最小限に抑える工夫としている。一部通路や段差のある箇所では見守りや手引き介助等、介助面で補うように努めている。必要な場所には手摺も設置されている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	室内には、トイレの表示や必要に応じ、居室の扉に表札を設け判別し易くして各人が自立して暮らせるように工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の配置計画上、外回りは利用し難いが、屋上にて園芸やバーベキュー、ティータイムを楽しんで頂いており、気分転換の場所としても活用している。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)